

中村国際ホテル専門学校 評価結果（評価対象期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（5：満足する、4：ほぼ満足する、3：やや満足しない、2：満足しない、1：全くできていない）

①評価領域A

評価項目			自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価	
1 産業界等との連携	1.1 産業界等のニーズを包含した教育	学校のミッション	ミッションは本校の教育理念を具現化したものになっているか	4	ミッションは教育理念を具現化しているが、内外への明示が不十分である。	4
			ミッションを決定する方法は妥当か			
			ミッションは学校内外に明確に示されているか			
		アクションプラン	アクションプランは本校の戦略や教育理念等を反映したものになっているか	4	年度運営計画を立案し実行しており、またその振り返りも行っている。その内容については教職員間での共有ができているが、その他のステークホルダーとの共有にまでは至っていない。	4
			アクションプランの実施に当たっての組織や予算の設定は成されているか			
			アクションプランの満足度は評価されているか（学生、教職員、外部の学校関係者の評価とその報告書の作成）			
		教育課程	必要とされる知識や技術が産業界等のニーズを反映したものか（調査方法等）	5	教育課程編成委員会を年2回実施し産業界のニーズを取り入れている。そういった正式な会議体以外にも日常的に産業界との情報交換を図っている。	5
			教育課程は産業界のニーズと合致したものであるか			
	1.2 社会の方向性や産業界の要求に適応した教育の実施	産業界のニーズを評価するシステム	学校と産業界を結ぶ委員会等は設置されているか	5	職業実践専門課程やTed Qual審査を有効に活用している。	5
		産業界のニーズに合致した教育課程に改定しているか	教育課程が社会ニーズを積極的に取り入れてきたか 教育の改善の結果の測定は行われているか	5	教育課程編成委員会を年2回実施し産業界のニーズを取り入れている。そういった正式な会議体以外にも日常的に産業界との情報交換を図っている。教育効果改善の効果は学校満足度調査や授業アンケートにより測定を行っている。令和5年度からWEBでの実施とすることでコメント等の回答数が増えた。	5

評価項目		自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価		
2 学生	2.1 一般的な広報活動と入学募集時の広報活動	広報活動は計画的に行われているか	5	広報活動は年間計画に沿って、適切な情報提供を行いながら実施をしている。令和5年度はコロナ明けで対面のイベントもすべて実施できた。一方で定量的な評価は不十分。	5	
		募集要項等の入学資料に入学資格、教育課程、教員、入学手続き、費用等は明記されているか				
		入学希望者等への学校広報のためのイベントは実施されているか				
		上記の入学希望者等への広報イベント以外に社会広報活動は実施しているか				
		広報活動の評価結果の報告書はあるか				
2.2 入学後の導入教育	2.2 入学後の導入教育	入学した学生への情報提供は適切か	5	入学後の導入教育については毎年、期間を設けオリエンテーションなどを実施している。また、1年次に学びの基本の授業を行い、学生に学校生発全般や効果的な学習方法など様々な情報提供を行っている。	5	
		最終的な入学手続きが行われているか				
		1年次学生に対する説明会等は実施されているか				
2.3 学生のニーズに留意しているか（事務、教育、福利厚生）	事務局	事務局は学生個々に留意しているか	4	学生連絡ツールとしてsigfyを導入し電話連絡を極力少なくすることができた。一方で、学生が自己の学習記録を記録できる仕組みの構築には至っていない。	4	
		事務局の学生との連絡方法と事務局の業務時間は適切に設定されているか				
		事務局の学生の学習記録等の処理方法は適切か				
		学生は自己の学習記録にアクセスできるか				
	教育面	教育交流プログラムやインターンシップを含め学生の相談に応じることができるシステムになっているか				クラス担任制度を設け、クラス担任が窓口となりサポートを行っている。
	福利厚生	学生の福利厚生を担当する部署はあるか				総務部にて学生のサポートを行っている。

評価項目		自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価
2.4 学生の能力評価	教員が学生の能力を幅広く評価するメカニズムがあるか	4	成績面では定期試験の評価を、そしてインターンシップでは企業からの評価を参考に各人の能力や資質を把握している。	4
2.5 学生満足度調査	各授業の出席率の調査結果はあるか	5	授業アンケートを全科目にて実施しており、学生から各科目の評価をできる仕組みとしている。出席については、職業教育の重要な事項と捉え、学生への指導を徹底すると共にデータを取り動向を確認している。	5
	出席基準は妥当か			
	欠席および退学に関する統計はあるか			
	各科目の教員についての学生からの評価方法はあるか			
2.6 卒業後の学生フォロー	卒業生のフォローが できているか	卒業生の企業等が記載された名簿があり、 それが更新されているか	卒業生の名簿は学籍簿として永久保管されている。同窓会については、ホテル業界在籍者を中心とした体制で運営されている。一方で就職した卒業生を対象とした満足度調査実施には至っていない。	4
		同窓会組織はあるか		
	就職率と就職先での卒業生の地位についての調査結果はあるか			
	就職企業の卒業生への満足度調査は実施しているか			

評価項目		自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価	
3 教育課程および実際の教育	3.1教育課程作成の方法	教育課程の作成方法論は適切か	5	教育課程は国内外のホテルスクールや国土交通省観光庁の「観光経営マネジメント人材育成」を参考に作成している。	5
		教育課程は国家基準や観光教育に関するガイドラインに準拠しているか			
		教育課程作成に校内および校外の実務経験者が参加しているか			
		諮問委員会の意見が教育課程作成に反映されているか			
		教育課程を実際の教育にする担当部署があるか			
	3.2教育課程の一貫性	各科目のシラバスはあるか	5	すべての科目においてシラバスを作成し、それに沿った授業が行われている。	5
	学期毎の授業計画は教育課程を満たしているか				
3.3 教育方法		教育方法に関する教員向けの授業ガイドラインはあるか	4	教員向け授業ガイドラインや教員研修がないため、今後作成が必要である。	4
		各教科の教育内容と教育方法の整合性は取れているか			
		各教科間の授業内容の一覧表はあるか			
		各教科間の授業内容の重複を避けるための調整機能があるか			
		新しい教育技術を取り入れ、あるいは産業界のニーズに合致した方法での教育内容にしてきたか			
		カリキュラムミーティングを半期に1度実施し、教授内容の重複など整合性を図っている。その内容を学則に反映させている。			
		シラバスやカリキュラムマップを作成している。			
		カリキュラムミーティングを半期に1度実施し、教授内容の重複など整合性をとるようにしている。			
		産業界との交流から一定程度産業界のニーズを取り入れている。一方で、教育技術についてはあまり進歩していない。			

評価項目			自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価
3.4 教育およびその関連施設設備	教育施設	常時使用する講義室は整備されているか	5	中村国際ホテル専門学校の校舎の改修を行っており、実習室等の充実化が図られた。また図書については中村学園大学と連携を行うとともに本校内の図書も寄付金を活用するなど充実化させている。	5
		実習室は整備されているか			
		観光に関する情報施設（図書室等）はあるか			
		コンピュータに関する施設は整備されているか			
	教育関連施設	スポーツ施設は整備されているか	4	学生が運営している学生食堂は整備されているが、スポーツ施設の整備に至っていない。	4
		学生食堂は整備されているか			
	教育に関する安全と保守の方法	教育施設の安全を守る方法は適切か	5	施設担当者を配置しており、安心安全な学校生活を送れるよう計画的な保守メンテナンスを行っている。	5
		教育施設の保守の方法は適切か			
		教育施設の安全と保守の実行方法は適切か			

評価項目		自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価	
4 教員	4.1 教員採用	教員採用の基本的基準はあるか	4	採用方法は様々な手法を利用して行っている。一方で採用の基本的な基準を明文化したものはない。	4
		専任教員採用の方法は適切か			
		実務家教員が教育に参加しているか			
4.2 教務	4.2 教務	教務部署の組織は適切か	5	教務部署の組織づくりが進むとともに、定期会議も隔週で行いPDCAサイクルに則った教務運営がなされている。教務機能の監視と評価は十分とは言えない。	5
		教員の定例会議は行われているか			
		教務機能の結果の監視と評価が行われているか			
4.3 教員の能力	4.3 教員の能力	教員能力の評価と報奨は適切か	4	教員の授業実施状況、その他の業務の状況から評価をし、賞与や昇級・昇進の参考としている。また、人事制度変更の検討を進めており、働きがい・働きやすい学園に向けて変革を進めている。その一環として令和6年度から新たな評価手法を導入する。	4
		教員の昇級、昇進等の機会は適切に設定されているか			

評価項目			自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価
4.4 継続的な知識の更新	教員研修	教員が資格等を得るための参加できる研修は実施されているか	3	これまで人材育成の仕組みの構築はできていなかった。令和6年度に人材育成を重要テーマとして、研修制度の検討を行っていく。	3
		上記研修の支援方法は適切か			
研修プログラムの選定の基準は妥当か					
	研究活動	教員の研究活動は行われているか	2	教員の研究活動は実施できていない。今後の長期的な課題として実施方法など検討を行っていく。	2
研究に用いられる施設はあるか					
他の教育機関等との研究連携協定はあるか					
研究項目と産業界のニーズの整合性は取れているか					
研究に対しての産業界の積極的な参加はあるか					
研究に対しての予算設定や補助はあるか					
研究活動は有効なものになっているか					

評価項目			自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価	
5 経営	5.1 経営組織	経営組織は適切か	5	日々の学園の意思決定として毎月、責任者にて学園協議会を実施している。また、最高意思決定機関として、理事会・評議員会を実施している。 労働環境のアンケートとして「ストレスチェック」を教職員に行っている。	5	
		事務局の組織と業務分掌は適切か				
		労働環境のアンケートは実施されているか				
	5.2 教育の質保証	質保証計画（クオリティプラン）	総括的な教育の質保証は実施されているか	3	学園計画、学校計画のサイクルは適切に実施されているが、教員が常にこのサイクルを意識するには至っていない。	3
			すべての学校関係者が質保証計画を知っているかどうかのアンケートと評価を実施しているか			
		質保証計画が適切に実行されているか				
教育の質のモニタリング	質保証計画の結果としての評価表があるか	4	Ted Qualが行う評価表をもとに教育の質の向上を図っている。教育の質のモニタリングは学生の授業評価や学校満足度調査程度しかできていない。	4		
	モニタリング担当部署はあるか					

①評価領域B

評価項目		自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価
産業界との連携	教職員および学生の国際交流の活発化	4	<ul style="list-style-type: none"> • TedQualのイベントとして令和5年12月に和歌山大学でのフォーラムに参加した。 • コロナ禍で実施できていなかった約10カ月の海外研修を再開した。 	4
学生	学生の英語力の向上および留学生の獲得	4	<ul style="list-style-type: none"> • 令和4年度から開始した新しい英語指導方法は2年目も確実に成果を上げている。授業外で英語のみで外国人講師とコミュニケーションする英語サロンなどの活動も開始した。 • コロナ明けで募集活動は正常化してきているが、留学生獲得には至っていない 	4
教育課程と教育方法	<ul style="list-style-type: none"> • 業界のニーズ、日本の労働市場のニーズ調査の実施 • 学生が集中力を高め、知識の普及を最適化する具体策の実施 	5	<ul style="list-style-type: none"> • 教育課程編成委員会を年2回開催し、業界からカリキュラムに対する意見収集をしている。また、授業協力、企業実習、就職など様々な機会を通じて日常的に企業との情報交換を行っている。 • 日常的に企業との情報交換を行っている。今後はより定量的なニーズ把握が必要である。 • 知識の向上のため関連図書の充実を図った。 	5
教員	<ul style="list-style-type: none"> • 専門図書の充実を図る • 教員対象の最新の教授法の講習会等の開催による授業方法の向上 	3	<ul style="list-style-type: none"> • 専門図書の購入を進め、図書の充実を図った。また、寄付をいただいたのでその資金を基に図書のさらなる充実を図る予定としている。中村学園大学図書館との提携を図り、教員および学生が同図書館を利用できることになった。 • 令和5年度の講習会実施はできていない。次年度以降検討する。 	3
マネジメント	海外の教育機関との連携協定を結ぶことにより、教育技術を向上させるとともに、国際化の推進を図る	4	ニュージーランドまたはカナダでの海外研修を再開することができた。帰国した学生は海外での経験を経てたくましく成長していた。一方で海外の教育機関との連携は実施できていない。	4
世界観光倫理憲章の達成	世界観光倫理憲章の日本語リーフレットを作成し、九州管内でのその普及を図る	5	憲章について掲示や学生便覧等で幅広く紹介を行っている。世界観光倫理憲章の日本語リーフレットを作成し、中村祭の来場者に学生がリーフレットを配布し、憲章の精神を解説した。また、令和5年度から新たな科目を設けて憲章の内容を授業に取り入れた。	5

①評価領域C

評価項目		自己評価	課題と改善方策	学校関係者評価
産業界等との連携	学校の理念や社会のニーズを踏まえた職業教育を推進しているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	教育理念の明文化は十分ではない。産業界との連携の中でそのニーズを把握し、また「実学教育を通じた社会人としての豊かな人格形成養成」の理念を活かして教育活動を推進している。形は心の現れの実践として学生が身なりを整えることは一定程度できているが、徹底とまでは至っていない。教育理念については学びの基本の授業を通じて新入生に浸透を図っている。	4
	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	教員を対象とした体系的なコンプライアンス教育は行えていない。今後の実施の必要があり、次年度以降e-learningを活用した研修を検討している。	4
経営	個人情報に関して、その保護のための対策が執られているか	4	現状個人情報保護に関する研修は実施できていない。個人情報保護のための研修は次年度以降はe-learningを活用した内容を検討している。	4
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	現状は無借金経営で財務状況は良いが、長期的な財務基盤をより強めていく必要がある。	4